

モダン・タイムズ・イン・パリ 1925

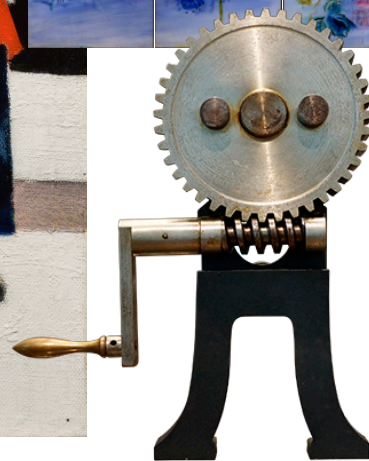
機械時代のアートとデザイン

Art and Design in the Machine-age

2023.12.16 SAT
- 2024.5.19 SUN

MODERN

TIMES in PARIS 1925



ポラ美術館
**PRESS
RELEASE**

POLA MUSEUM
OF ART
POLA MUSEUM
OF ART

モダン・タイムズ・イン・パリ

1925

1920年代、フランスの首都パリをはじめとした欧米の都市では、第一次世界大戦からの復興によって工業化が進み、「機械時代」(マシン・エイジ)と呼ばれる華やかでダイナミックな時代を迎えました。本展覧会は、1920-1930年代のパリを中心に、ヨーロッパやアメリカ、日本における機械と人間との関係をめぐる様相を紹介します。特にパリ現代産業装飾芸術国際博覧会(アール・デコ博)が開催された1925年は、変容する価値観の分水嶺となり、工業生産品と調和する幾何学的な「アール・デコ」様式の流行が絶頂を迎えました。日本では1923年(大正12)に起きた関東大震災以降、東京を中心に急速に「モダン」な都市へと再構築が進むなど、世界は戦間期における繁栄と閉塞を経験し、機械や合理性をめぐる人々の価値観が変化していきました。

コンピューターやインターネットが高度に発達し、AI(人工知能)が人々の生活を大きく変えようとする現代において、本展覧会は約100年前の機械と人間との様々な関係性を問いかけます。

FOODERN

TIMES in PARIS 1925

AI時代のはじまりに、機械と人間の関係を問いかける

1920年代には、自動車や航空機という人間の力を大きく凌駕する機械が急速に普及します。レジェやブランクーシ、そしてシュルレアリスムの作家など、この時代のアーティストによる機械への賛美や反発を、AI(人工知能)が人類の知能を超える「シンギュラリティ」(技術的特異点)が到来しようとする現代と重ね合わせて見なおします。

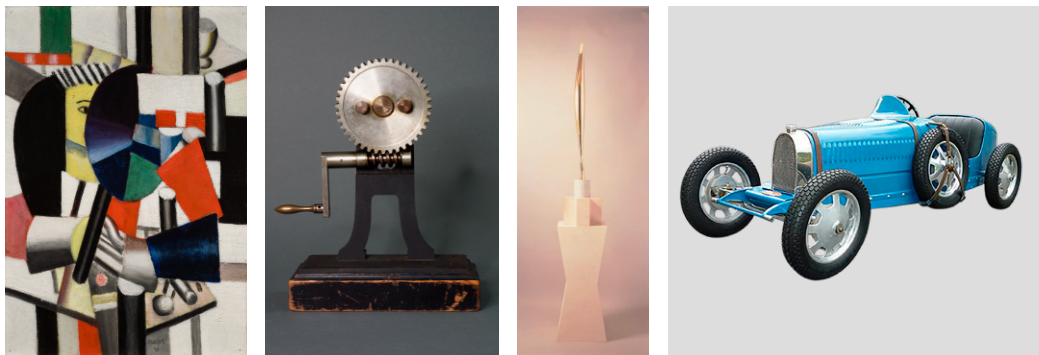
アール・デコを機械時代として捉える：装飾と機械の融合

1920年代を代表する装飾スタイル「アール・デコ」は、異国趣味や古典回帰、現代主義(モダニズム)など、多くの価値観が混在して生み出されました。この展覧会では多面的なアール・デコのなかでも「モダン」(現代的)な側面に注目し、産業技術や都市の発達という視点から捉えます。それまで余剰や付随とみなされていた装飾は、機能や実用性を感じさせる幾何学的な造形として流行し、この時代の建築や家具、服飾の分野に広がりました。

日本のモダニズム：モダン都市を彩るアール・デコと機械美

日本におけるグラフィックデザイナーの先駆けとなった杉浦非水による、アール・デコ様式の影響を受けたポスターや雑誌の表紙を紹介するとともに、レジェに感化された古賀春江や、機械美に魅せられた河辺昌久ら異色の前衛芸術家の作品により、大正末期から昭和初期にかけての日本のモダニズムを検証します。

展覧会構成



フェルナン・レジェ《鏡を持つ女性》1920年、ポーラ美術館／《ウォーム歯車機構》年代不詳、東京大学総合研究博物館／コンスタンティン・ブランクーシ《空間の鳥》1926年(1982年鑄造)、滋賀県立美術館／《ブガッティ タイプ52(ベイビー)》1920年代後半-1930年代前半、トヨタ博物館

機械と人間：近代性のユートピア

1918年に第一次世界大戦が終結すると、機械文明は生活の利便性を高めるために大きく発展します。特に自動車や航空機が普及し、機械時代(マシン・エイジ)と呼ばれる時代の象徴となりました。芸術家やデザイナーも機械の進化が理想的な新しい時代をもたらすと信じ、機械をモチーフにして作品を制作しています。

CHAPTER

1925年にパリ現代産業装飾芸術国際博覧会(通称アール・デコ博)が開催され、この時代の流行が一堂に会しました。ガラス工芸作家ルネ・ラリックは、自動車を飾るカーマスコットや、幾何学的な建築空間に合わせた室内装飾、香水瓶などのデザインを手掛け、カッサンドルは、単純化した造形と大胆なグラデーションを活かして豪華客船や鉄道のポスターを制作しています。作家たちは、機械や工業製品の美を称揚し、未来を感じさせるイメージを作り出したのです。

CHAPTER



装う機械：アール・デコと博覧会の夢



ロベール・ボンフィス《ポスター「PARIS-1925 アール・デコ博」》1925年、京都工芸繊維大学美術工芸資料館[AN.2694-43]／A.M.カッサンドル《ポスター「ノルマンディー号」》1935年、京都工芸繊維大学美術工芸資料館[AN.4739]©www.cassandre.fr APPROVAL by the ESTATE OF A.M.CASSANDRE / JASPAR 2023 B0685／ルネ・ラリック《香水瓶「ジュルヴィアン」》(ウォルト社)1929年12月2日原型制作、ポーラ美術館／マルク・ラリック《香水瓶「ジュルヴィアン」》(ウォルト社)1952年以降、ポーラ美術館

役に立たない機械：ダダとシュルレアリスム

機械の発達は、近代化に抵抗する動きも引き起こしました。1910年代には、欧米の各都市で芸術のシステムに異を唱える芸術運動「ダダ」が起こり、1924年にはアンドレ・ブルトンが「シュルレアリスム宣言」を発表します。彼は理性ではたどり着けない「超現実」を芸術によって探究するシュルレアリスムを創始し、それは1920年代後半から大きな芸術運動となっていきました。シュルレアリスムは機械時代を支える合理主義を批判的に捉え、目的を持つ機械とも、造形的な美しさを探究する彫刻とも異なる、「オブジェ」という新たな概念の立体作品を生み出しました。



ジョルジョ・デ・キリコ《ヘクトールとアンドロマケ》1930年頃、ポーラ美術館 ©SIAE, Roma & JASPAR, Tokyo, 2023 B0685 / マン・レイ《破壊されないオブジェ》1923/1975年、東京富士美術館 ©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom ©MAN RAY 2015 TRUST / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 B0691



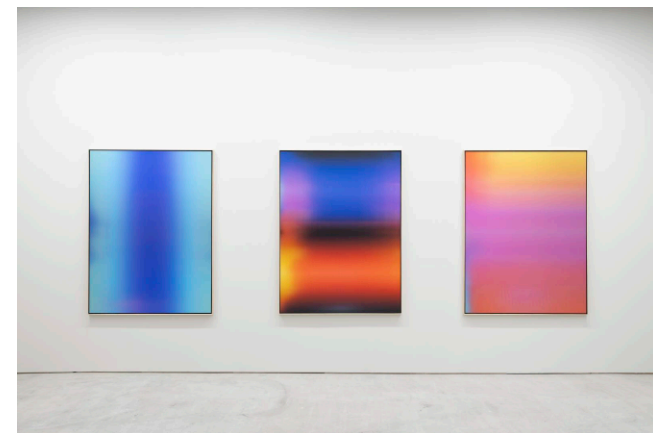
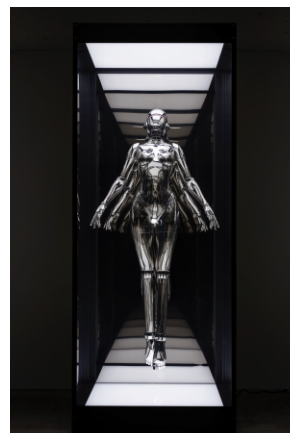
杉浦非水《東洋唯一の地下鉄道 上野浅草間開通》1927年(昭和2)、愛媛県美術館 [展示期間: 2023年12月16日-2024年3月1日 / 古賀春江《現実線を切る主智的表情》1931年(昭和6)、株式会社西日本新聞社(福岡市美術館寄託)

日本では1923年(大正12)に発生した関東大震災からの復興により、急速に近代化が推し進められました。日本のモダンデザインのパイオニアである杉浦非水は、1922年(大正11)からのヨーロッパ遊学を経てアール・デコ様式を昇華させ、明快で力強いデザインによってビルや地下鉄が彩るモダン都市・東京を表現しました。また古賀春江や河辺昌久といった前衛的な芸術家が活躍したのもこの時代です。機械的なモチーフを採り入れ、新しい時代の高揚感と不安とが交錯するような絵画作品が多数生み出されました。

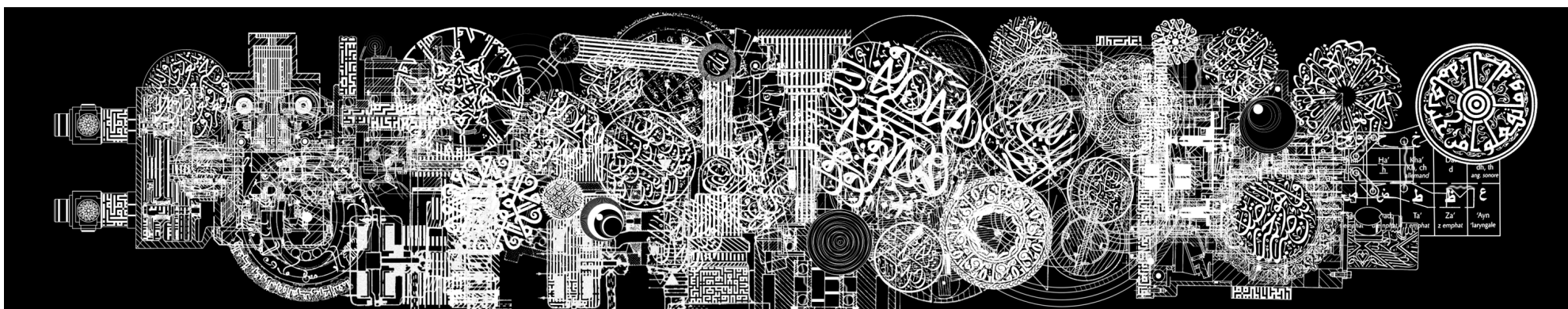
モダン都市東京：アール・デコと機械美の受容と展開

21世紀のモダン・タイムス

本展覧会では、現代において機械文明やロボット、デジタル時代の視覚性をテーマに制作を行うアーティストを紹介し、現代の「モダン・タイムス」を考えます。パリ在住の作家ムニール・ファトゥミによる、自身のルーツであるアラブ世界の近代化をテーマとした映像作品、「ポスト・ヒューマン」の世界を思わせるロボットのような人物像を制作する空山基^{はじめ}による近未来的な立体作品、そしてインターネットを使ったNFT作品を手掛けるラファエル・ローゼンダールによるデジタルとフィジカル(物理的)との境界線を問う高さ3メートルにおよぶレンヂキュラー作品を展示します。



空山基《Untitled_Sexy Robot type II floating》2022年、Courtesy of NANZUKA /ラファエル・ローゼンダール「Into Time」シリーズ、展示風景：「Screen Time」Takuro Someya Contemporary Art, 2022年、Photo: Shu Nakagawa ©Rafaël ROZENDAAL



ムニール・ファトゥミ《モダン・タイムス、ある機械の歴史》2010年、Courtesy of the artist and Art Front Gallery, Tokyo Photo: ©mounir fatmi

年表

- 1918 第一次世界大戦終結
- 1919 ワイマールにバウハウス創設
- 1920 アメリカで世界初のラジオ局が開設
- 1923 日本、関東大震災
- 1924 パリ・オリンピック開催。「シュルレアリスム宣言」発表
- 1925 パリ、アール・デコ博開催
- 1927 東京に地下鉄開通(上野～浅草間)
- 1929 ニューヨーク、世界恐慌はじまる
- 1931 パリ、植民地博覧会開催
- 1932 ロサンゼルス・オリンピック開催
- 1935 豪華客船「ノルマンディー号」就航
- 1936 映画「モダン・タイムス」公開
- 1937 パリ万博(現代生活における芸術と技術の国際博覧会)開催



ジャン・ドロワ《ポスター「PARIS-1924 第8回パリ・オリンピック」》1924年京都工芸繊維大学美術工芸資料館
[AN.2679-22]／絵葉書「アール・デコ博」1925年

キーワード集

機械時代(マシン・エイジ)

第一次世界大戦後、航空機や自動車が普及し、重工業が発達するなかで、機械を来るべき新時代の象徴として称揚した時代。特に1920年代から30年代初頭のアメリカで顕著であり、フランスでは、機能性と装飾とが結びついてアール・デコ様式に影響を与えた。

アール・デコ

1925年に開催された「パリ現代産業装飾芸術国際博覧会」の名称に由来する、1920年代前後に流行した装飾や建築の様式を示す言葉。アール・ヌーヴォーの有機的な曲線美に対して、幾何学的な造形を特徴とする。

1925年

パリでアール・デコ博が開催された1925年は、「狂騒の時代」と呼ばれた20年代の文化が最高潮を迎えた年であり、ブルトンが機関誌『シュルレアリスム革命』に「シュルレアリスムと絵画」を発表して本格的に視覚芸術に参入しはじめるなど、美術とデザインにおける転換点となった。

シュルレアリスム

詩人アンドレ・ブルトンを中心に、理性によらない芸術を探究した運動。第一次世界大戦で行き過ぎた近代主義や理性主義に反発して発生し、1924年に「シュルレアリスム宣言」の発表によってグループとして始動した。

関連プログラム

3月23日(土)河本真理(日本女子大学教授) 講演会

講師 | 河本 真理(日本女子大学国際文化学部教授)

日時 | 2024年3月23日(土) 14:00-15:30(13:50に講堂にお集まりください)

定員 | 先着100名(当日入館券が必要です)

「ラ・メゾン・デュ・ショコラ」とコラボレーション!

創業以来変わることなく、手仕事による製造を守り続ける
パリのブランド「ラ・メゾン・デュ・ショコラ」と「モダン・タイムス・
イン・パリ 1925」展がコラボレーション!

会期中、カフェ チューン(B1F)にて「ラ・メゾン・デュ・ショコラ」
のスイーツプレートをお召し上がりいただけます。※数量限定



展覧会概要

モダン・タイムス・イン・パリ 1925 – 機械時代のアートとデザイン

Modern Times in Paris 1925 – Art and Design in the Machine Age

主催 | 公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館

後援 | フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ

会期 | 2023年12月16日(土) – 2024年5月19日(日)

会場 | ポーラ美術館

報道に関するお問い合わせ

ポーラ美術館 広報担当 | 田中・稲見 TEL:0460-84-2111

ポーラ美術館 広報事務局 | 大野・岡 TEL:03-5572-7351(株式会社プラチナム内)

Mail:polamuseum-pr@vectorinc.co.jp

POLA MUSEUM OF ART
ポーラ美術館